

2014/12/1

柏の景気情報（平成26年11月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成26年11月分）

○ 調査期間 : 平成26年11月18日 ~ 11月28日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	80	51.3%
建設	44	21	47.7%
製造	33	16	48.5%
卸・小売	43	28	65.1%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成26年11月の調査結果のポイント】

◀業況DIは悪化。コスト増、円安による先行き不透明感が続く▶

○11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.7(前月水準▲21.6)となり、マイナス幅が7.1ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲53.5(同▲55.5)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲9.5(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲25.0(同▲11.7)、サービス業▲13.3(同▲6.6)である。

【建設業】からは、「材料費高騰が相変わらず悩みの種。11月に8%に上がった分の消費税を支払ったが、かなりの増加で正直きつかった」(内装工事業)、「材料費が高騰。工事単価は下落した状況が続いており、採算が合わない。見積り依頼はかなり有るものの、人手不足、業者不足により人件費も高騰しているため、安易な受注は出来ない。その結果、売上減少となり、今後の見通しも厳しい。11月、12月は毎年繁忙期だが、今年は物件数は減少しているが人手不足のため、忙しい毎日となっている」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「酒類業界全体では、市場は縮小気味もウスキーは個人消費が堅調に推移している」(酒類製造業)、「生産量の減少はあるが、社内全体として高齢化も進んでいる。来年度は、新卒等の採用を考えているが、厳しい状況である」(一般産業用機械・装置製造業)、「消費税値上げが先延ばしとなり、個人消費は上がりそうだが、印刷物の受注は増える見込みが無さそう」(印刷業)、などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「気温の低下による冬物衣料の活発な動きを期待するも、婦人・紳士ともコートの動きが鈍く、衣料品の苦戦につながっている。宝飾・時計などの高額品は、増税後の反動減から回復傾向にあるものの、前年実績には届かない。食品は、お歳暮ギフトが堅調に推移。後半は、前年よりも曜日の巡り合わせも良く、早割需要にも十分期待できる」(百貨店)、「10月に秋物好調であったが、11月に入りそのまままるまる減少に転じてしまった。例年11月中旬くらいからコートの売上が活発化するが、今年は全く当たりが無い。業界的には不況状況が続いている」(婦人・子供服小売業)、「年末に向けて原材料のバター不足が深刻です」(菓子・パン小売業)、「青果市場では、秋から冬にかけての作柄は順調な入荷となっていますが、消費購買は減退しており、市場取引は減少傾向にあります。また、年末に向けて入荷が減少していく品目も予想されます。今後の経済の動きと将来の不安が和らぐ感が欲しいところです。消費者に対してニーズに合った取引と安全安心に一層取組んで参ります」(食料・飲料卸売業)、「増税の先送りには安心している。その間に好転を期待したい。暖冬の予報なので冬物取引に不安」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「売上は微増。昨年は春物を10月に仕入れたために、マイナス(減益)でしたが、今期(10月頃からは)時期を遅らせた分増益。客単価は減少。財布の紐が固く、必需品以外の衝動買いは皆無。今年のキャラクターブームも一服状態で、次の人気キャラの出現待ち」(その他の飲食料品小売業)、「法人需要では、企業の周年事業やイベントなど、2015年度大型案件の企画見積り依頼が増えている。また、2020年オリンピック開催に向けた訪日客の取り組みについて、自治体より相談依頼が出てきた。一方、衆議院解散総選挙による法人需要減少の懸念がある。個人需要では、円安の影響で海外旅行の予約が低調。国内旅行の予約は堅調である」(旅行業)、「お客様の問い合わせは今までと変わらずにあります。契約までが長い時間を費やしており、慎重に検討している方が多いです。相変わらず建築費が高止まりしています。契約数、金額は不変です」(不動産管理業)、「賃料収入は、昨年よりも増収となった。新事業は、建築資材が上昇し利回りが悪く、収益幅が小さいため、利益は見込めない状況である。家賃を上げたいが、まだまだその状況には無い。一方、入居率は良くなりつつある」(不動産賃貸業)、「市街地、豊四季台等の大型再開発、北部地区及び隣接地の開発の更新と来年度の常磐線東京駅乗り入れに東葛地域のイメージ向上を期待したい」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎原材料費高騰

各業種から、「資材の高騰が続いている。積算単価は見直されつつあるが、人手不足も聞かれる」(電気工事業)、「ナッツ類、乳製品、チョコレート等多くの原材料が値上がりで非常に厳しい」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

◎円安の影響

各業種から、「円安で収益は改善するも、減収減益で推移」(織物業)、「円安の影響で円建ての取引先企業の支払いが先行している」(その他の機械・同部品製造業)、「円安が進んでいるために今後も仕入れ原価の上昇が予想される」(各種食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種から、「工事単価は下落した状況が続いており、採算が合わない。見積り依頼はかなり有るものの、人手不足、業者不足により人件費も高騰している」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
6月	▲27.0	▲4.0	▲31.2	▲57.1	▲6.2
7月	▲22.2	△4.1	▲18.7	▲61.5	±0.0
8月	▲27.3	±0.0	▲11.7	▲66.6	▲20.0
9月	▲26.8	▲4.1	▲25.0	▲59.2	▲6.6
10月	▲21.6	±0.0	▲11.7	▲55.5	▲6.6
11月	▲28.7	▲9.5	▲25.0	▲53.5	▲13.3
見通し	▲25.0	±0.0	▲25.0	▲46.4	▲20.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成26年11月の業況についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.7(前月水準▲21.6)となり、マイナス幅が7.1ポイント拡大した。

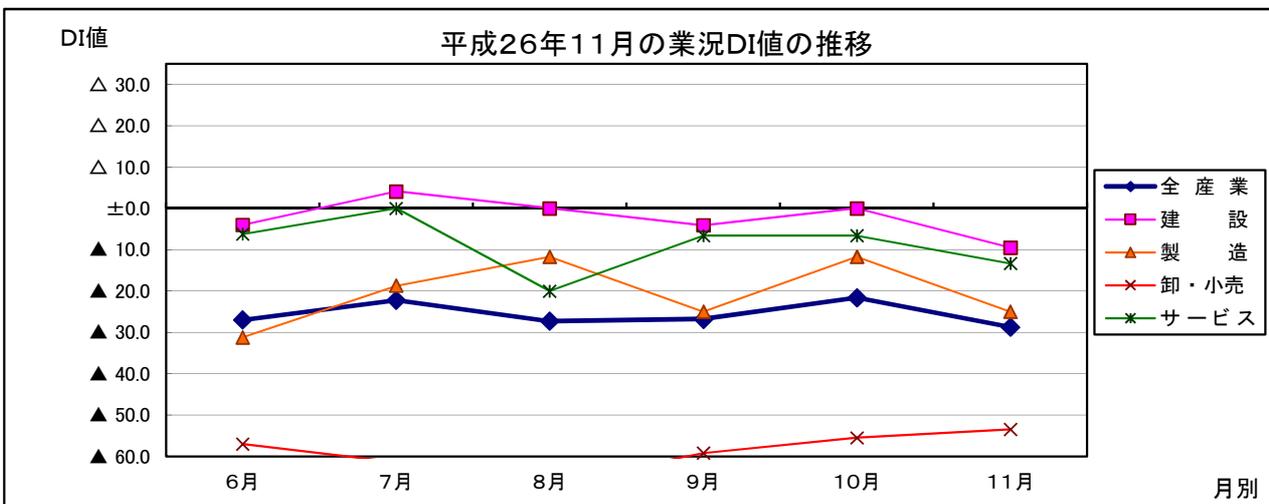
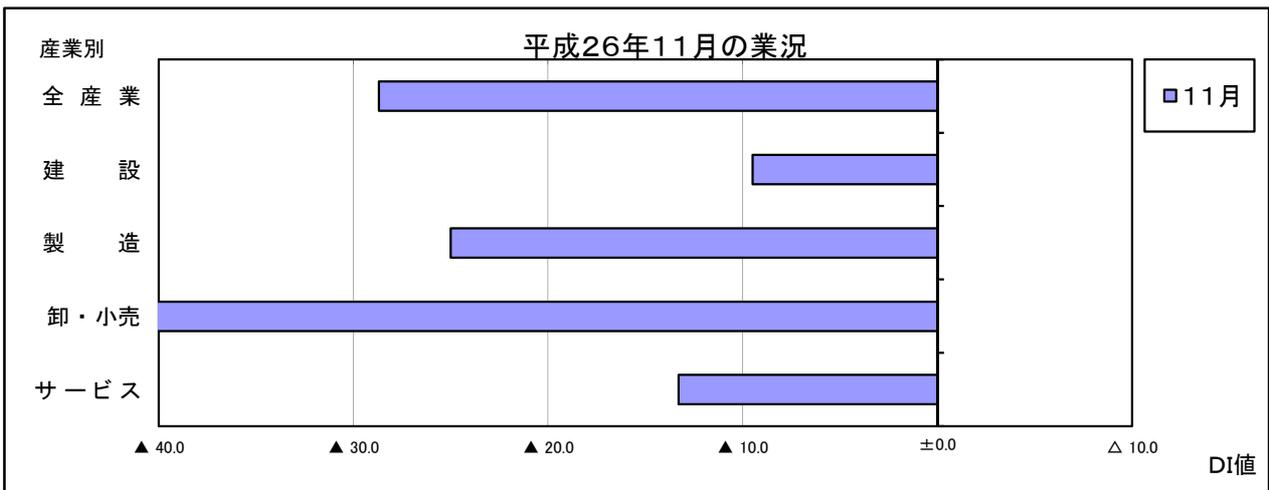
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲53.5(同▲55.5)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲9.5(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲25.0(同▲11.7)、サービス業▲13.3(同▲6.6)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲25.0(前月水準▲14.4)となり、マイナス幅が10.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業±0.0(同△4.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲25.0(同▲5.8)、サービス業▲20.0(同▲6.6)、卸小売業▲46.4(同▲40.7)である。

平成26年11月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲27.0	▲22.2	▲27.3	▲26.8	▲21.6	▲28.7	▲25.0(▲14.4)
建設	▲4.0	△4.1	±0.0	▲4.1	±0.0	▲9.5	±0.0(△4.1)
製造	▲31.2	▲18.7	▲11.7	▲25.0	▲11.7	▲25.0	▲25.0(▲5.8)
卸・小売	▲57.1	▲61.5	▲66.6	▲59.2	▲55.5	▲53.5	▲46.4(▲40.7)
サービス	▲6.2	±0.0	▲20.0	▲6.6	▲6.6	▲13.3	▲20.0(▲6.6)



【平成26年11月の売上についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.0(前月水準▲25.3)となり、マイナス幅が5.3ポイント縮小した。

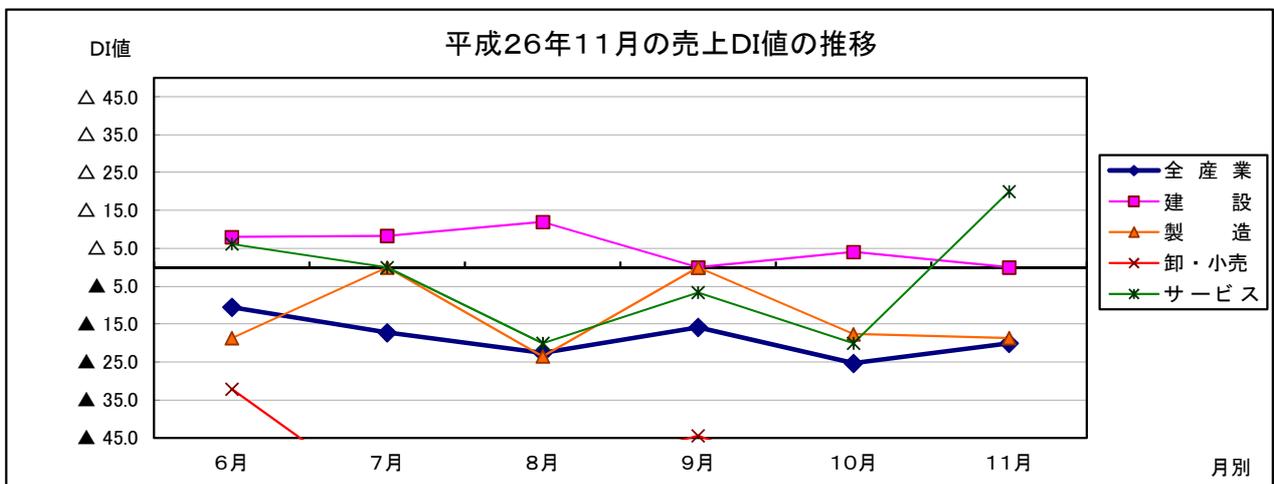
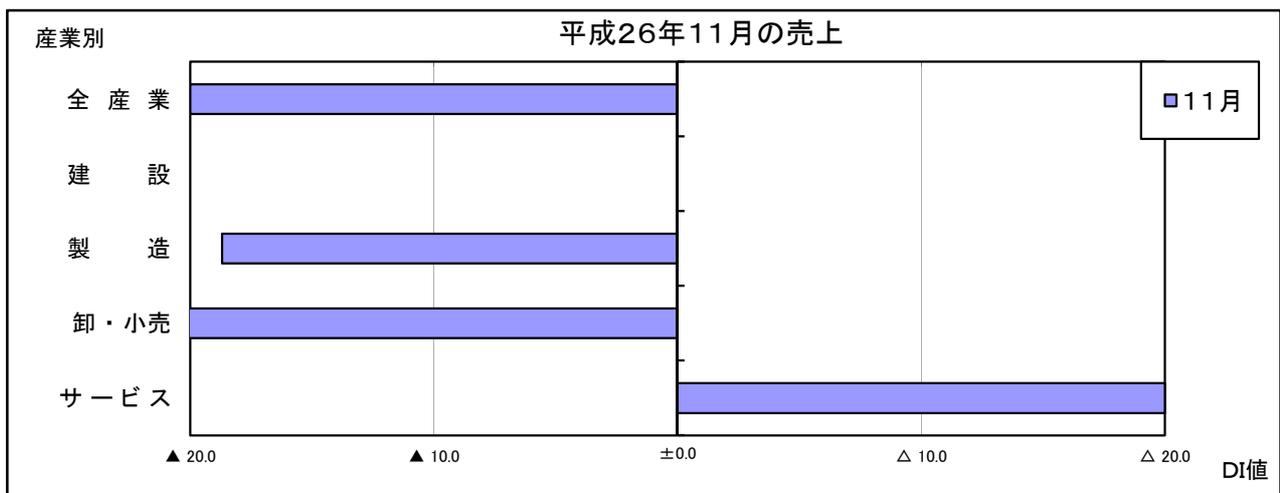
業種別では、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△20.0(同▲20.0)であり、40.0ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲57.1(同▲59.2)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同△4.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲18.7(同▲17.6)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16.2(前月水準▲10.8)となり、マイナス幅が5.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲28.5(同▲33.3)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲18.7(同△5.8)、サービス業▲6.6(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲4.7(同▲4.1)である。

平成26年11月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲10.5	▲17.2	▲22.6	▲15.8	▲25.3	▲20.0	▲16.2(▲10.8)
建設	△8.0	△8.3	△12.0	±0.0	△4.1	±0.0	▲4.7(▲4.1)
製造	▲18.7	±0.0	▲23.5	±0.0	▲17.6	▲18.7	▲18.7(△5.8)
卸・小売	▲32.1	▲61.5	▲55.5	▲44.4	▲59.2	▲57.1	▲28.5(▲33.3)
サービス	△6.2	±0.0	▲20.0	▲6.6	▲20.0	△20.0	▲6.6(±0.0)



【平成26年11月の採算についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.5(前月水準▲26.5)となり、マイナス幅が1.0ポイント拡大した。

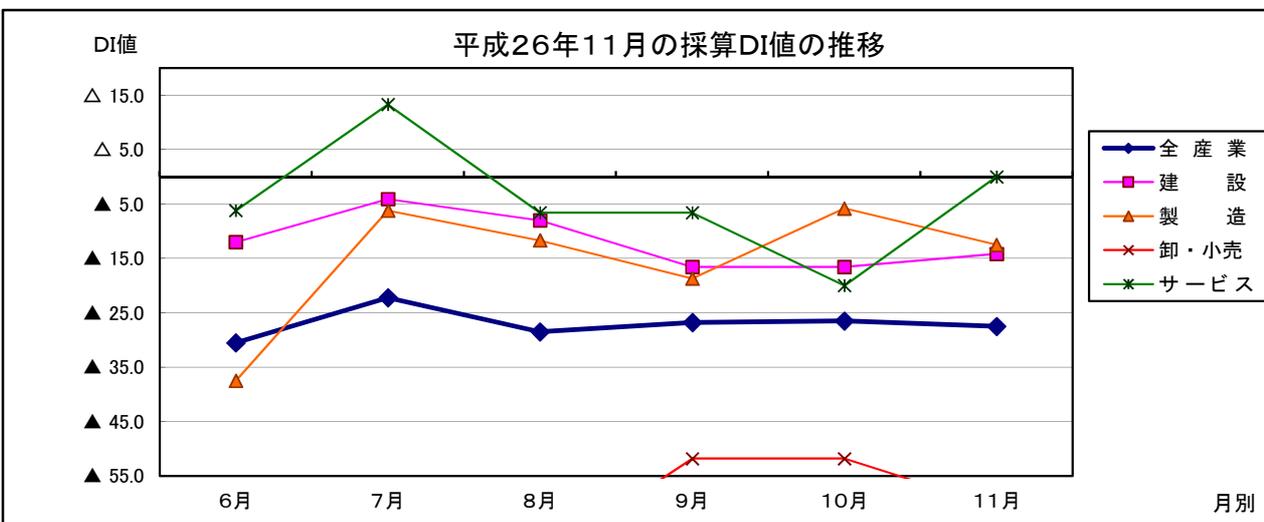
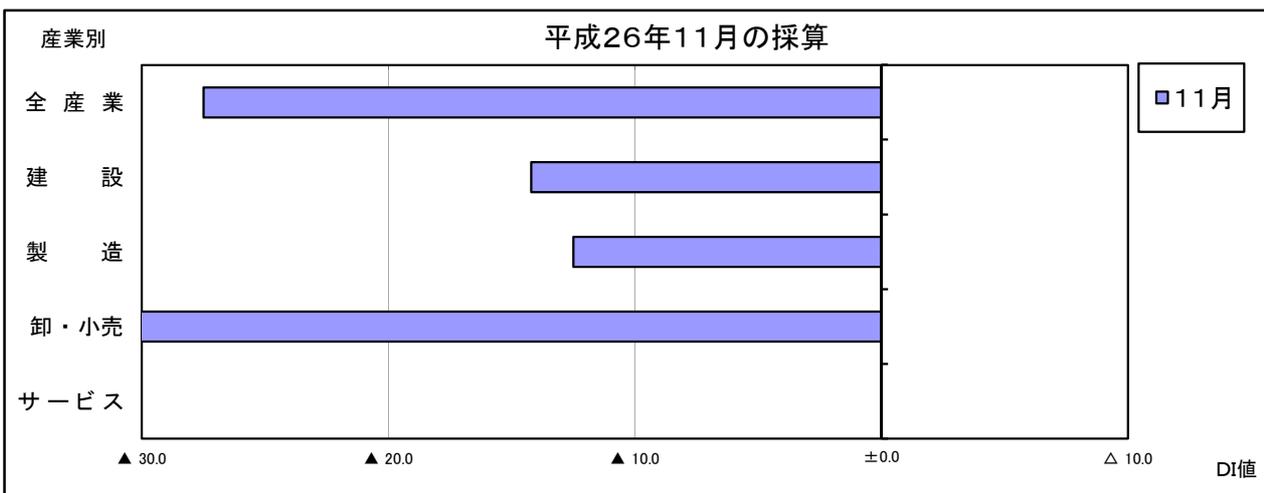
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0.0(同▲20.0)であり、20.0ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲14.2(同▲16.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲60.7(同▲51.8)、製造業▲12.5(同▲5.8)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.5(前月水準▲13.2)となり、マイナス幅が9.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲12.5(同△5.8)、サービス業▲6.6(同△6.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲14.2(同▲8.3)、卸小売業▲42.8(同▲40.7)である。

平成26年11月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲ 30.5	▲ 22.2	▲ 28.5	▲ 26.8	▲ 26.5	▲ 27.5	▲ 22.5(▲ 13.2)
建設	▲ 12.0	▲ 4.1	▲ 8.0	▲ 16.6	▲ 16.6	▲ 14.2	▲ 14.2(▲ 8.3)
製造	▲ 37.5	▲ 6.2	▲ 11.7	▲ 18.7	▲ 5.8	▲ 12.5	▲ 12.5(△ 5.8)
卸・小売	▲ 57.1	▲ 69.2	▲ 70.3	▲ 51.8	▲ 51.8	▲ 60.7	▲ 42.8(▲ 40.7)
サービス	▲ 6.2	△ 13.3	▲ 6.6	▲ 6.6	▲ 20.0	±0.0	▲ 6.6(△ 6.6)



【平成26年11月の仕入単価についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲45.0(前月水準▲34.9)となり、マイナス幅が10.1ポイント拡大した。

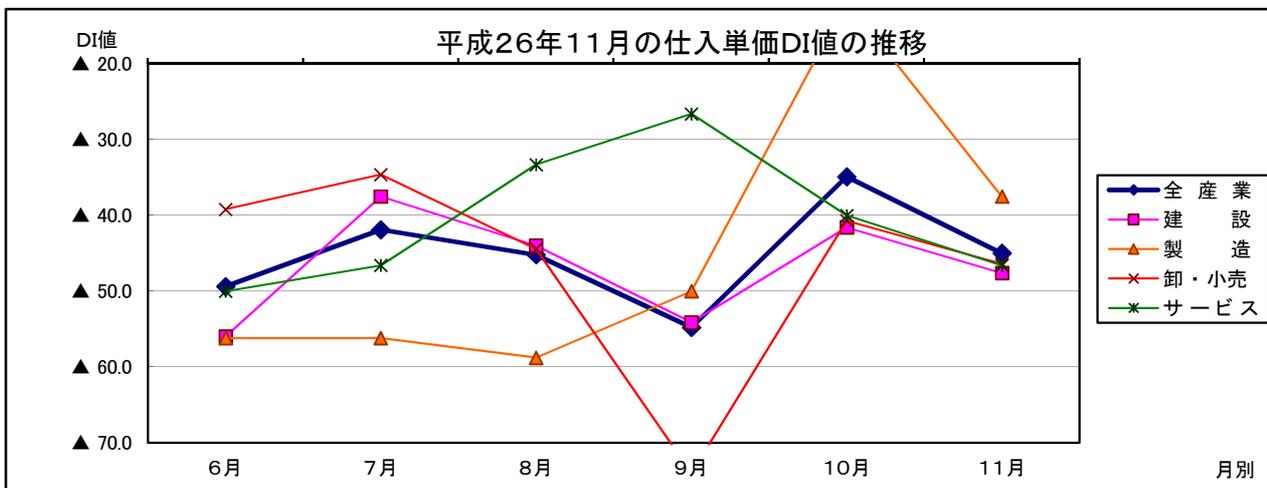
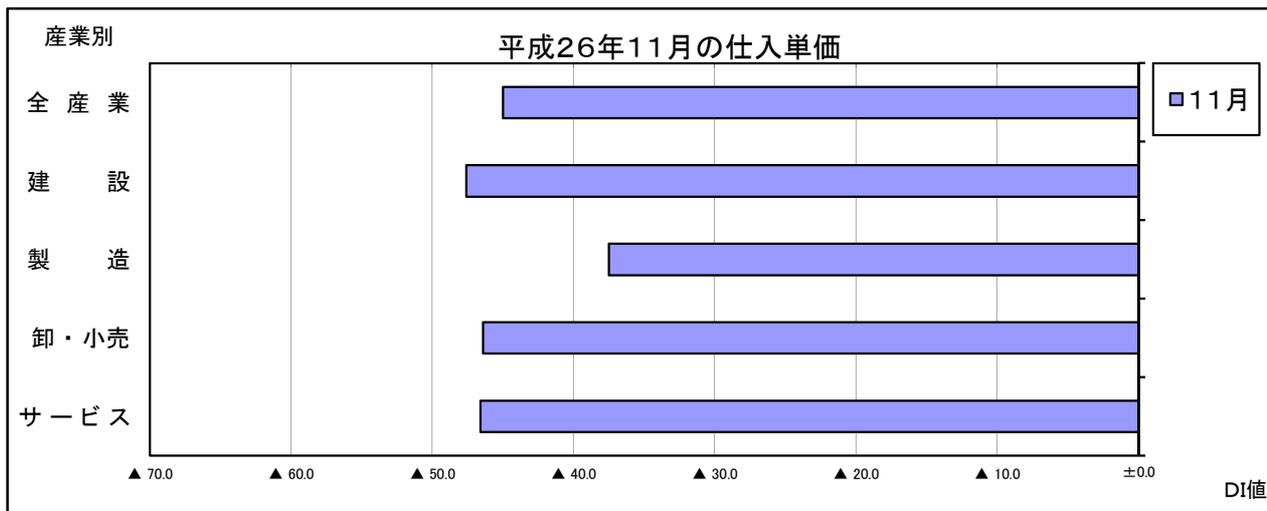
業種別では、前月水準と比べて、全ての業種でマイナス幅が拡大しており、幅の大きい順に、製造業▲37.5(同▲11.7)、サービス業▲46.6(同▲40.0)、建設業▲47.6(同▲41.6)、卸小売業▲46.4(同▲40.7)であり、特に、製造業では、25.8ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲40.0(前月水準▲31.3)となり、マイナス幅が8.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲25.0(同▲29.4)、卸小売業▲39.2(同▲40.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲60.0(同▲26.6)であり、特に、サービス業は、マイナス幅が33.4ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成26年11月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲49.4	▲41.9	▲45.2	▲54.8	▲34.9	▲45.0	▲40.0(▲31.3)
建設	▲56.0	▲37.5	▲44.0	▲54.1	▲41.6	▲47.6	▲38.0(▲25.0)
製造	▲56.2	▲56.2	▲58.8	▲50.0	▲11.7	▲37.5	▲25.0(▲29.4)
卸・小売	▲39.2	▲34.6	▲44.4	▲74.0	▲40.7	▲46.4	▲39.2(▲40.7)
サービス	▲50.0	▲46.6	▲33.3	▲26.6	▲40.0	▲46.6	▲60.0(▲26.6)



【平成26年11月の従業員についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△7.5(前月水準△9.6)となり、プラス幅が2.1ポイント縮小した。

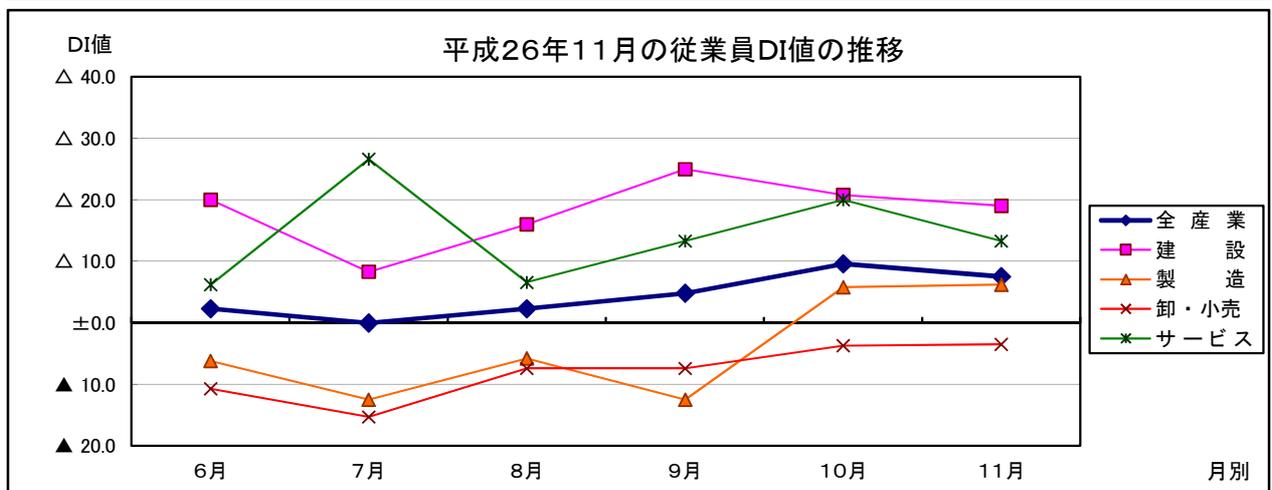
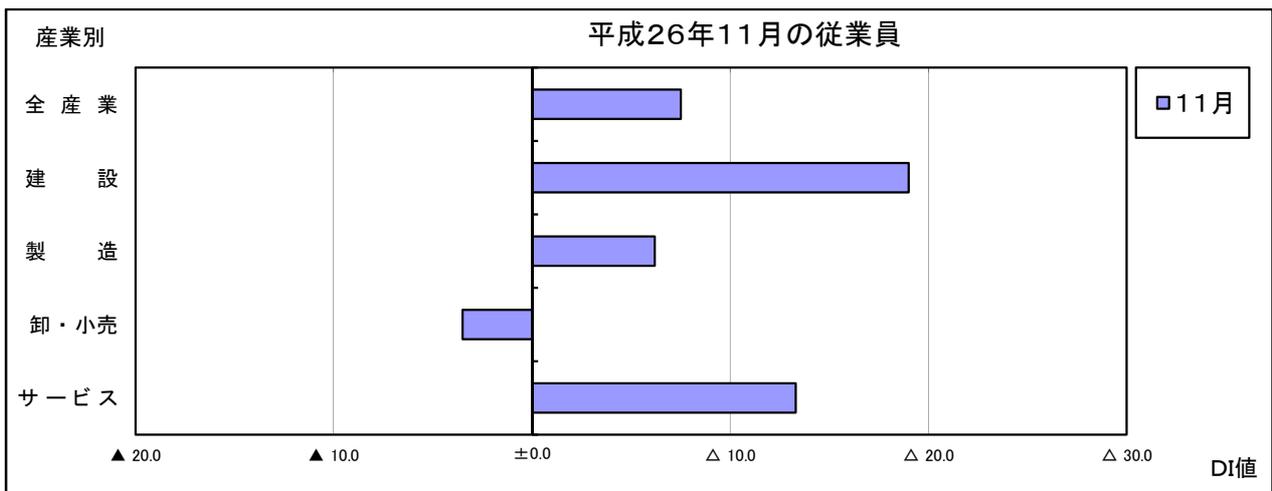
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△6.2(同△5.8)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲3.5(同▲3.7)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業△13.3(同△20.0)、建設業△19.0(同△20.8)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、△5.0(前月水準△10.8)となり、プラス幅が5.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲7.1(同▲7.4)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△13.3(同△26.6)、建設業△19.0(同△25.0)、製造業±0.0(同△5.8)である。

平成26年11月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成26年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	△2.3	±0.0	△2.3	△4.8	△9.6	△7.5	△5.0(△10.8)
建設	△20.0	△8.3	△16.0	△25.0	△20.8	△19.0	△19.0(△25.0)
製造	▲6.2	▲12.5	▲5.8	▲12.5	△5.8	△6.2	±0.0(△5.8)
卸・小売	▲10.7	▲15.3	▲7.4	▲7.4	▲3.7	▲3.5	▲7.1(▲7.4)
サービス	△6.2	△26.6	△6.6	△13.3	△20.0	△13.3	△13.3(△26.6)



【平成26年11月の資金繰りについての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11. 2(前月水準▲13. 2)となり、マイナス幅が2. 0ポイント縮小した。

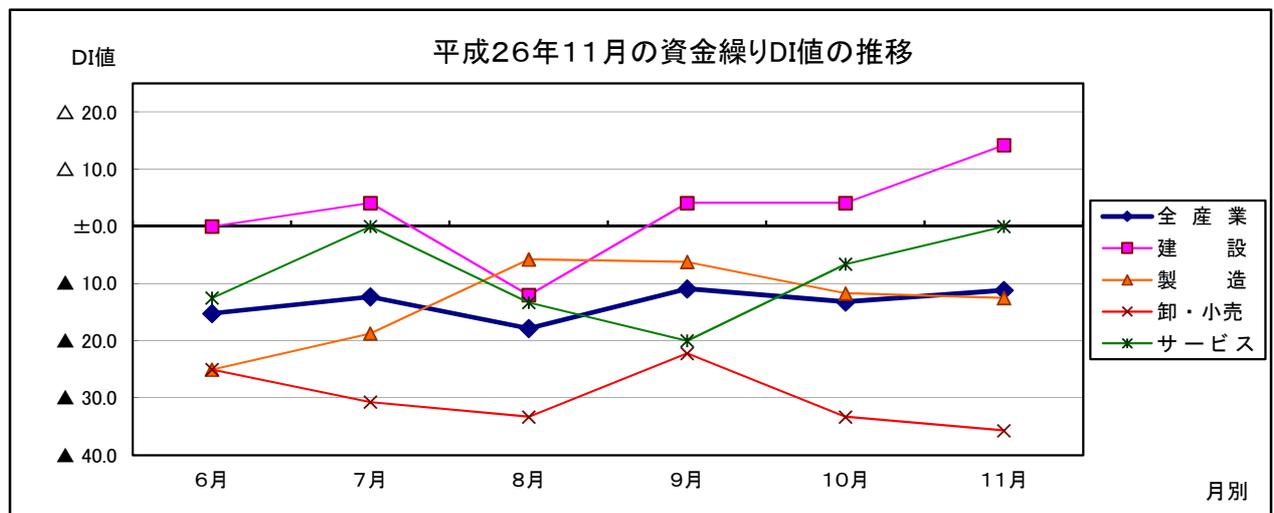
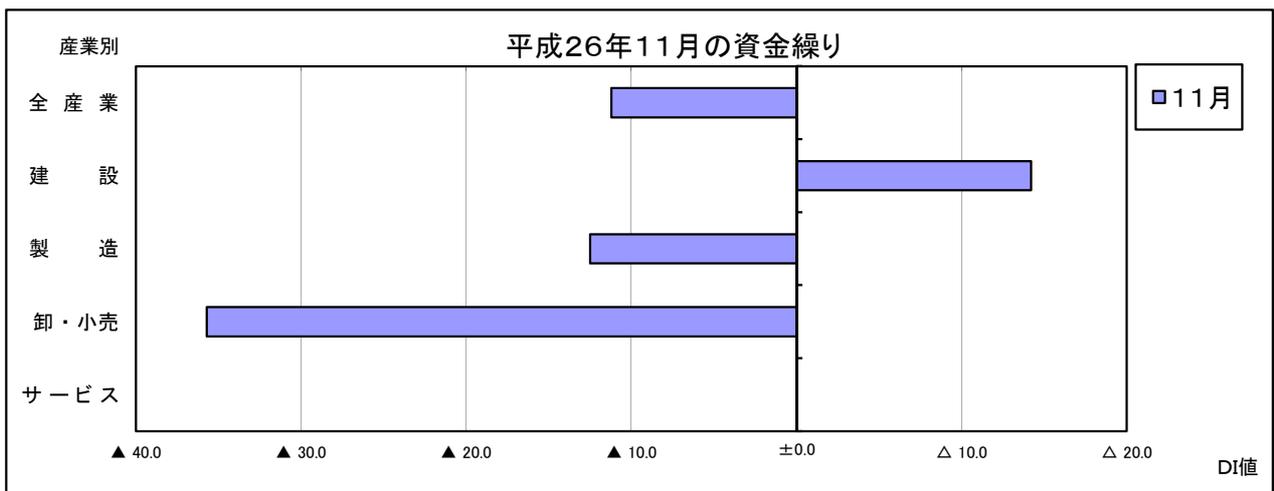
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△14. 2(同△4. 1)である。マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0. 0(同▲6. 6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲35. 7(同▲33. 3)、製造業▲12. 5(同▲11. 7)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13. 7(前月水準▲9. 6)となり、マイナス幅が4. 1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△9. 5(±0. 0)である。変わらない見通しの業種は、サービス業▲6. 6(同▲6. 6)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲12. 5(△11. 7)であり、24. 2ポイントと大幅に悪化する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲35. 7(同▲33. 3)である。

平成26年11月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成26年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲15.2	▲12.3	▲17.8	▲10.9	▲13.2	▲11.2	▲13.7(▲9.6)
建設	±0.0	△4.1	▲12.0	△4.1	△4.1	△14.2	△9.5(±0.0)
製造	▲25.0	▲18.7	▲5.8	▲6.2	▲11.7	▲12.5	▲12.5(△11.7)
卸・小売	▲25.0	▲30.7	▲33.3	▲22.2	▲33.3	▲35.7	▲35.7(▲33.3)
サービス	▲12.5	±0.0	▲13.3	▲20.0	▲6.6	±0.0	▲6.6(▲6.6)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 20.0	▲ 16.2	▲ 27.5	▲ 22.5	▲ 45.0	▲ 40.0	△ 7.5	△ 5.0
建設	±0.0	▲ 4.7	▲ 14.2	▲ 14.2	▲ 47.6	▲ 38.0	△ 19.0	△ 19.0
製造	▲ 18.7	▲ 18.7	▲ 12.5	▲ 12.5	▲ 37.5	▲ 25.0	△ 6.2	±0.0
卸・小売	▲ 57.1	▲ 28.5	▲ 60.7	▲ 42.8	▲ 46.4	▲ 39.2	▲ 3.5	▲ 7.1
サービス	△ 20.0	▲ 6.6	±0.0	▲ 6.6	▲ 46.6	▲ 60.0	△ 13.3	△ 13.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 28.7	▲ 25.0	▲ 11.2	▲ 13.7
建設	▲ 9.5	±0.0	△ 14.2	△ 9.5
製造	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 12.5
卸・小売	▲ 53.5	▲ 46.4	▲ 35.7	▲ 35.7
サービス	▲ 13.3	▲ 20.0	±0.0	▲ 6.6

【平成26年11月の業種別業界内トピックス】

業種別	概 況	キーワード	業種
建設	資材の高騰が続いている。積算単価は見直されつつあるが、人手不足も聞かれる。	原材料費高騰 人手不足	電気工事業
	材料費高騰が相変わらず悩みの種。11月に8%に上がった分の消費税を支払ったが、かなりの増加で正直きつかった。	原材料費高騰 消費税増税の影響	内装工事業
	材料費が高騰。工事単価は下落した状況が続いており、採算が合わない。見積り依頼はかなり有るものの、人手不足、業者不足により人件費も高騰しているため、安易な受注は出来ない。その結果、売上減少となり、今後の見通しも厳しい。11月、12月は毎年繁忙期だが、今年は物件数は減少しているが人手不足のため、忙しい毎日となっている。	原材料費高騰 工事単価下落 不採算 人手不足、人件費高騰 業者不足	その他の職別工事業
製造業	円安で収益は改善するも、減収減益で推移。	円安の影響	織物業
	消費税値上げが先延ばしとなり、個人消費は上がりそうだが、印刷物の受注は増える見込みが無さそう。	消費税再増税先送り	印刷業
	円安の影響で円建ての取引先企業の支払いが先行している。	円安の影響	その他の機械・同部品製造業
	酒類業界全体では、市場は縮小気味もウイスキーは個人消費が堅調に推移している。	個人消費堅調	酒類製造業
	生産量の減少はあるが、社内全体として高齢化も進んでいる。来年度は、新卒等の採用を考えているが、厳しい状況である。	生産量減少 社内高齢化 新卒採用	一般産業用機械・装置製造業
卸小売	気温の低下による冬物衣料の活発な動きを期待するも、婦人・紳士ともコートの動きが鈍く、衣料品の苦戦につながっている。宝飾・時計などの高額品は、増税後の反動減から回復傾向にあるものの、前年実績には届かない。食品は、お歳暮ギフトが堅調に推移。後半は、前年よりも曜日の巡り合わせも良く、早割需要にも十分期待できる。	冬物衣料苦戦 消費税増税の影響 お歳暮ギフト堅調	百貨店
	10月に秋物好調であったが、11月に入りそのままの減少に転じてしまった。例年11月中旬くらいからコートの売上が活発化するが、今年は全く当たりが無い。業界的には不況状況が続いている。	冬物衣料苦戦 業界の不況状況	婦人・子供服小売業
	再増税の先送りには安心している。その間に好転を期待したい。暖冬の予報なので冬物取引に不安。	消費税再増税先送り	その他の各種商品小売業
	円安が進んでいるために今後も仕入れ原価の上昇が予想される。	円安の影響	各種食料品小売業
	年末に向けて原材料のバター不足が深刻です。	原材料不足	菓子・パン小売業
	ナッツ類、乳製品、チョコレート等多くの原材料が値上がりで非常に厳しい。	原材料費高騰	菓子・パン小売業

【平成26年11月の業種別業界内トピックス】

	<p>青果市場では、秋から冬にかけての作柄は順調な入荷となっていますが、消費購買は減退しており、市場取引は減少傾向にあります。また、年末に向け入荷減少が予想される品目もあります。今後の経済の動きと将来の不安が和らぐ感が欲しいところです。消費者に対してニーズに合った取引と安全安心に一層取組んで参ります。</p>	<p>青果物の堅調な推移 消費購買低迷</p>	<p>食料・飲料卸売業</p>
サービス	<p>売上は微増。昨年は春物を10月に仕入れたために、マイナス(減益)でしたが、今期(10月頃からは)時期を遅らせた分増益。客単価は減少。財布の紐が固く、必要品以外の衝動買いは皆無。今年のキャラクターブームも一服状態で、次の人気キャラの出現待ち。</p>	<p>売上微増 客単価減少</p>	<p>その他の飲食料品小売業</p>
	<p>法人需要では、企業の周年事業やイベントなど、2015年度大型案件の企画見積依頼が増えている。また、2020年オリンピック開催に向けた訪日客の取り組みについて、自治体より相談依頼が出てきた。一方、衆議院解散総選挙による法人需要減少の懸念がある。個人需要では、円安の影響で海外旅行の予約が低調。国内旅行の予約は堅調である。</p>	<p>オリンピック開催 衆議院解散総選挙 法人需要減少の懸念 円安の影響 海外旅行低調 国内旅行堅調</p>	<p>旅行業</p>
	<p>お客様の問い合わせは今までと変わらずにあります。契約までが長い時間を費やしており、慎重に検討している方が多いです。相変わらず建築費が高止まりしています。契約数、金額は不変です。</p>	<p>仕入れ単価上昇(建築コスト)</p>	<p>不動産管理業</p>
	<p>賃料収入は、昨年よりも増収となった。新事業は、建築資材が上昇し利回りが悪く、収益幅が小さいため、利益は見込めない状況である。家賃を上げたいが、まだまだその状況には無い。一方、入居率は良くなりつつある。</p>	<p>仕入れ単価上昇(建築コスト) 賃料収入増加 入居率の改善</p>	<p>不動産賃貸業</p>
	<p>市街地、豊四季台等の大型再開発、北部地区及び隣接地の開発の更新と来年度の常磐線東京駅乗り入れに東葛地域のイメージ向上を期待したい。</p>	<p>大型再開発</p>	<p>不動産賃貸・管理業</p>

◎原材料費高騰

資材の高騰が続いている。積算単価は見直されつつあるが、人手不足も聞かれる。

電気工事業

ナッツ類、乳製品、チョコレート等多くの原材料が値上がりで非常に厳しい。

菓子・パン小売業

◎円安の影響

円安で収益は改善するも、減収減益で推移。

織物業

円安の影響で円建ての取引先企業の支払いが先行している。

その他の機械・同部品製造業

円安が進んでいるために今後も仕入れ原価の上昇が予想される。

各種食料品小売業

◎人手不足

工事単価は下落した状況が続き、採算が合わない。見積り依頼はかなり有るものの、人手不足、業者不足により人件費も高騰している。

その他の職別工事業

平成26年11月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲28.7に対し、「CCI-LOBO」が▲26.0で柏の方がマイナス幅が2.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業である。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.0に対し、「CCI-LOBO」が▲15.4で柏の方がマイナス幅が4.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業で、それぞれ10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲27.5に対し、「CCI-LOBO」が▲24.2で柏の方がマイナス幅が3.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、卸小売業で、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲45.0に対し、「CCI-LOBO」が▲48.7で、柏の方がマイナス幅が3.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△7.5に対し、「CCI-LOBO」が△12.0で柏の方がマイナス幅が4.5ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業で、卸サービス業で、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲11.2に対し、「CCI-LOBO」が▲15.7で柏の方がマイナス幅が4.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、サービス業で、それぞれ10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業であり、卸小売業では10ポイント以上悪い。

平成26年11月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 28.7	 ▲ 9.5	 ▲ 25.0	 ▲ 53.5	 ▲ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 26.0	 ▲ 10.2	 ▲ 18.8	 ▲ 46.9	 ▲ 20.0

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 20.0	 ±0.0	 ▲ 18.7	 ▲ 57.1	 △ 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 15.4	 ▲ 3.3	 ▲ 1.3	 ▲ 38.2	 ▲ 15.4

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 27.5	 ▲ 14.2	 ▲ 12.5	 ▲ 60.7	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 24.2	 ▲ 12.5	 ▲ 16.9	 ▲ 40.9	 ▲ 20.7

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 45.0	 ▲ 47.6	 ▲ 37.5	 ▲ 46.4	 ▲ 46.6
CCI-LOBO	 ▲ 48.7	 ▲ 58.1	 ▲ 49.2	 ▲ 46.2	 ▲ 46.5

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 △ 7.5	 △ 19.0	 △ 6.2	 ▲ 3.5	 △ 13.3
CCI-LOBO	 △ 12.0	 △ 22.2	 △ 3.8	 △ 13.6	 △ 18.8

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 11.2	 △ 14.2	 ▲ 12.5	 ▲ 35.7	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 15.7	 ▲ 10.2	 ▲ 10.0	 ▲ 23.5	 ▲ 17.2

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (11月速報)

調査期間：平成26年11月13日～19日

調査対象：全国の422商工会議所が3156企業
組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、回復の弱さが続く。先行きも一段のコスト増で慎重な見方が広がる

11月の全産業合計の業況DIは、▲26.0と、前月から▲1.5ポイント悪化し、足踏み状況にあるものの、「好転」から「不変」への変化も影響していることに留意が必要。業種を問わず、円安に伴うコスト増による収益圧迫が足かせとなり、中小企業の景気感は弱さが続く。加えて、製造業では、足元の需要が鈍く、取引先の在庫調整による受注の伸び悩みを指摘する声が聞かれる。また、個人消費は、高付加価値の商品・サービスの需要は底堅いものの、家計負担が増す中で、消費者の節約志向も強まっており、回復に力強さを欠く。

先行きについては、先行き見通しDIが▲25.2（今月比+0.8ポイント）と、ほぼ横ばいを見込む。冬の賞与増に伴う個人消費の持ち直しや、在庫調整の一巡による生産増への期待はあるものの、急激な円安進行に伴う一段のコスト増への警戒感や、消費者の生活防衛意識の高まり、足元の設備投資の弱さなどへの不安が伺え、中小企業においては、先行きに対して慎重な見方が広がっている。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】

「人手不足や人件費の上昇により、一部の工事費で延期や中止が発生」（一般工事業）、「リフォームの引き合いが徐々に始まったほか、年度内には、10月の台風に係る復旧工事の発注が見込まれる」（一般工事業）、「年末にかけて修繕・補修工事の受注があったものの、年明け以降の見通しが全く立たない」（建築工事業）

【製造業】

「受注が伸び悩んでいるため、生産調整により在庫の消化を図っている」（衣料品製造業）、「高級家具の売れ行きが堅調。他方で、円安進行により海外産の原木の価格が上昇しており、対策が急務」（家具製造業）、「自動車メーカーからの国内向けの受注が低調なものの、産業機械向けが補い、売上は伸びている」（鋼管製造業）

採算の合う案件に受注を絞っている」（冷凍食品等卸売業）、「急激な円安に伴う輸入品の価格上昇に転嫁が追い付かない」（園芸用品卸売業）

【小売業】

「衣料品は苦戦しているものの、外国人観光客の利用が伸びており、売上はほぼ前年並み」（百貨店）、「消費者の低価格志向が顕著になっているが、品質などにこだわる傾向もみられる」（総合スーパー）、「ショッピングセンターやネット販売との競争が激しく、売上が減少」（商店街）

【サービス業】

「受注は伸びているが、コストダウン要請が強いため、採算面の改善が遅れている」（ソフトウェア業）、「来客数が減少しているほか、忘年会予約の出足も鈍く、業況は厳しい」（飲食店）、「電力料金の上昇に加え、食料品の仕入コストも増大しており、収益圧迫が続いている」（旅館業）

【卸売業】

「円安の影響もあって、食品メーカーから国産豚肉の引き合いが増加。他方で、飲食店からの受注は減少」（畜産物卸売業）、「仕入価格の上昇に対応するため、

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
6月	▲20.3	±0.0	▲11.7	▲25.0	▲44.4	▲17.1
7月	▲19.7	▲2.1	▲14.1	▲22.2	▲41.0	▲16.5
8月	▲20.5	▲4.8	▲10.9	▲27.3	▲43.0	▲16.7
9月	▲24.2	▲10.4	▲13.1	▲30.5	▲42.2	▲24.9
10月	▲24.5	▲11.3	▲11.3	▲34.3	▲44.0	▲22.8
11月	▲26.0	▲10.2	▲18.8	▲34.6	▲46.9	▲22.0
見通し	▲25.2	▲17.2	▲19.1	▲28.4	▲41.8	▲20.0

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI